

特別寄稿

押川方義墓畔の人々を語る

(その4)

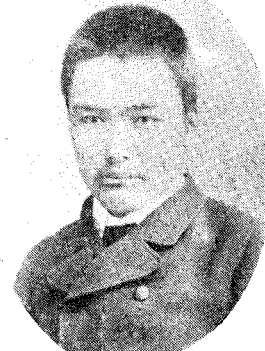
花輪 庄三郎

高橋 伝五郎
千島開拓伝道に赴き
殉難した愛国の志士

高橋伝五郎は、明治4年6月15日、青森県三戸下組町5番地、両親高橋三郎と高橋おとせの間に生まれる。幼少より、父の篤い愛と、母の慈愛に育ち、15才にして母を失い、他家に寄寓しつつ貧困不遇の中に入ることとなる。二兄二姉あり、伝五郎はその末子である。

小学校を卒業するや、軍人を志し千島開拓に赴く。陸軍共同団(当時)に入るが目的であった。だが、伝五郎は折角入団の志望から中途退団の憂目を見たのである。その間、伝五郎は、植村正久・巖本善治等から基督教についてきくところがあり、そのついでに、押川方義を慕い、その門を叩くことになるのである。

押川方義は伝五郎を一見してその胸に、26年2月には皇軍自ら国民の国防思想はますます沸騰し、26年2月には皇軍自ら国民



高橋伝五郎の生涯(注) 多少大まかきり、押川方義院長より贈られた。

この胸に、26年2月には皇軍自ら国民の国防思想はますます沸騰し、26年2月には皇軍自ら国民

この胸に、26年2月には皇軍自ら国民の国防思想はますます沸騰し、26年2月には皇軍自ら国民

この胸に、26年2月には皇軍自ら国民の国防思想はますます沸騰し、26年2月には皇軍自ら国民

この胸に、26年2月には皇軍自ら国民の国防思想はますます沸騰し、26年2月には皇軍自ら国民

この胸に、26年2月には皇軍自ら国民の国防思想はますます沸騰し、26年2月には皇軍自ら国民

この胸に、26年2月には皇軍自ら国民の国防思想はますます沸騰し、26年2月には皇軍自ら国民

この胸に、26年2月には皇軍自ら国民の国防思想はますます沸騰し、26年2月には皇軍自ら国民



故アルフレッド・アンケニー前東北学院長の末に、マリーカレット・S・アンケニー夫人は、去る10月8日、フィラデルフィア近郊の老人ホームで、満80歳の生涯を閉じられた。

ミセス・アンケニーは周知の通り、本院の三校租のひとりシユネーター博士の次女であり、日本で生まれ育ち、その生涯の大半を、両親の働きで、日本への献金をあつた。宣教師として献身された。10年前、母の病のため、退、米園において余生を養つておられたが、去る8月上旬、脳溢血のため突然、一時は快方に

ミセス・アンケニーの逝去を悼む

ミセス・アンケニーの逝去を悼む

ミセス・アンケニーの逝去を悼む

ミセス・アンケニーの逝去を悼む

ミセス・アンケニーの逝去を悼む

ミセス・アンケニーの逝去を悼む

ミセス・アンケニーの逝去を悼む

ミセス・アンケニーの逝去を悼む



高橋伝五郎の碑

高橋伝五郎の碑

この胸に、26年2月には皇軍自ら国民の国防思想はますます沸騰し、26年2月には皇軍自ら国民

この胸に、26年2月には皇軍自ら国民の国防思想はますます沸騰し、26年2月には皇軍自ら国民

この胸に、26年2月には皇軍自ら国民の国防思想はますます沸騰し、26年2月には皇軍自ら国民

この胸に、26年2月には皇軍自ら国民の国防思想はますます沸騰し、26年2月には皇軍自ら国民

この胸に、26年2月には皇軍自ら国民の国防思想はますます沸騰し、26年2月には皇軍自ら国民

この胸に、26年2月には皇軍自ら国民の国防思想はますます沸騰し、26年2月には皇軍自ら国民

この胸に、26年2月には皇軍自ら国民の国防思想はますます沸騰し、26年2月には皇軍自ら国民

この胸に、26年2月には皇軍自ら国民の国防思想はますます沸騰し、26年2月には皇軍自ら国民

この胸に、26年2月には皇軍自ら国民の国防思想はますます沸騰し、26年2月には皇軍自ら国民

この胸に、26年2月には皇軍自ら国民の国防思想はますます沸騰し、26年2月には皇軍自ら国民